

フィールドワークについて

建築では壁・屋根で囲い取られる空間の表現手段として製図があります。しかし、手法が同じだからと機械製図が優先し、建築製図は無視され今日に至っています。精密な機械のためには精密な図面が書ければよいであろうが、建築はただきれいな図面が書けても豊かな空間把握の力は養えません。教養をその即物的な教授法の面から見る視野の狭さからの脱却が必要です。


また、建築家にとって一番大切な感性や想像力は、学校において学ぶものではなく、自分自身で会得しなければならないものだということを生徒知らせることも必要だと感じます。基本的に私たちは見たことのないものはイメージできませんから、新しい空間や建築を創造していくためには様々な建築の様式や素晴らしい空間を経験しておくことが不可欠です。たくさんの言葉と語彙を知らなければ、奥深く心打つ美しい文章を書くことができないのと同じ事です。それにはスケッチをすることが効果的です。スケッチという作業は、現実に目の前に存在する空間や形を実体験することにより記憶でき、同時に記録もできるという二つの利点があります。

そこで、下記に示す軽井沢に点在する建物を見学し、スケッチすることにより感動を受けた景色や建築を記録し、消えることのない記憶へと昇華する体験を提案します。

主な見学先

- ・三五荘
- ・茶苑南暁茶室「大庵」
- ・軽井沢の山荘（設計：吉村順三）
- ・ギャラリー桜の木軽井沢店（設計：中村拓志）
- ・軽井沢聖パウロカトリック教会〈セントポールチャペル〉（設計：アントニン・レーモンド）
- ・軽井沢クリークガーデン（設計：山本良介アトリエ）
- ・脇田美術館／脇田邸（設計：吉村順三） ※脇田邸非公開
- ・室生犀星記念館
- ・石の教会・内村鑑三記念堂（設計：ケンドリック・B・ケロッグ）
- ・軽井沢プリンスショッピングプラザ・ニューイースト・ピッコラロトンダ（設計：池原義郎）
- ・レストランアーティチョーク（設計：柳澤孝彦）

これらの建物を学校も学年も異なるグループ編成とする班別行動により見学し、さまざまな意見交換を通して知的好奇心を刺激し合う体験の場としたいと思います。

見学先	三五荘
建物紹介	<p>三五荘は 江戸末期に甲州塩山の豪農が建てた民家です。それを関西の実業家原田汽船の原田六郎が移築したのが1935年(S10年)だったので三五荘と名付けたとされています。戦後 GHQが接収し その後は東急電鉄が所有し五島昇氏らが利用していましたが、S59年に隣接した地に研修所を所有していた中央工学校が買い取り老朽化した建物を補修し、日本の建築技術の生きた教材として蘇らせた建物です。</p> <p>切妻屋根に突き上げ屋根は、塩山辺りの養蚕民家の特徴であり原田六郎はこの建物の壁に、輸入物の一枚ガラスを入れた窓を付けて採光を取り過ぎし易い別荘として改装しました。江戸末期の建築時点から数えると140年を経た歴史ある貴重な財産といえます。</p>
Memo	<p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
スケッチ	

見学先	茶苑 南暁 茶室「大庵」
建物紹介	<p>中央工学校の軽井沢の研修施設「南ヶ丘倶楽部」内に、小間「大庵」・広間・立礼席を備えた茶苑「南暁」が竣工されました。中でも茶室「大庵」は、数寄屋建築家中村昌生氏の考証・設計により、千利休が大坂屋敷に築き、大阪夏の陣で消失されたとされる幻の茶室、「深三畳台目席」を復元したものです。</p>
Memo	<p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
スケッチ	

空間造形演習について

まちをつくろう！ 空間ワークショップは、JIA（日本建築家協会）関東甲信越支部中野地域会が、地域をあげたお祭り「中野まつり」に子どもたちを対象にした空間ワークショップとして2000年から行っています。2004年には、第43回東京都図画工作研究会の城西大会「ひろげよう図工のゆたかさ―社会に発信する図工の役割と意義―」にてたくさんの図工科の先生方が参加され実施されました。その後、武蔵野市内の小学校に活動の輪が広がっています。

たくさんの角材をジャンボ輪ゴムでつなぎ、組んで、立ち上げる！

仲間とつくったイメージを、組んでは壊し、やり直す。材料の角材は、長さの異なる2種類で、ちょうど量の縦と横と同じ長さ。空を見上げ、樹木を眺め、お互いに観察する…。

木材は森からのおくりものです。

森にごみは出しません！使う素材はどこまでも、自然にかえる天然素材です。

目的とその効果

- 目的
- 1 未来を担う子どもたちの環境・建築教育
 - 2 造形の具体的手法の研究／普及
- 効果
- 1 共同で空間を表現することで、建築環境が体験できる楽しさや協調性を養う
 - 2 ゴミを出さない、無駄にしない環境保全への示唆を含んだこのプログラムを実施することで、住みよい美しいまちとすることの大切さを知る。
 - 3 自然界の調和の法則を感じとる。

木材に自ら手を触れ、自然の織りなす厳しさや暖かさを想像しながら、ものづくりを経験するという事は、子どもが育つ過程において大切なことです。また、グループで協力して行うことで、お互いの考えを伝え認め合う、コミュニケーション能力の育成にも役立ちます。何よりも、仲間と一緒にひとつのことを成し遂げる楽しさを経験することができます。

また、地域密着型実践教育の一環として、地域の子どもたちとの実践や体験入学でのプログラムとしての利用も可能だと思います。

この機会に是非、このプログラム体験いただければと思います。

2 空間ワークショップのながれ

● 制作から解体まで

アドバイス



「角材を輪ゴムでつなげて四角形ができます。こんな力がかかると…。では、三角形は？」
「強い！」

リユース



次のワークショップのために保管します。

設計



手を使い、体を使い、五感で学習中…。やがて、表現し始めます。



四角形・五角形・六角形と、段々円くなる？
1階、2階、物見塔……。

個性的な名前をつけて、それぞれグループで、「どんなにすばらしい」かを、「苦労した点、工夫したところ」とあわせて、みんなに発表します。



発表

解体



もったいない！ですが解体します。

回収



角材は長さを揃えて、輪ゴムは濡んだものを取り除き、すべて、回収します。ごみは 出さない！と最小限にします。

組み立て



試行錯誤「基礎が大事、土台が大事、筋かきが大事……」を学ぶ貴重な時間……。そろそろリーダーが誕生？



それぞれのチームで思いが形になってきました。

完成



作品を前に、記念撮影。



高い所の作業は友達が馬になってくれました。



地面で組み立てた屋根を背伸びして組み上げます。

棟上げ